

教科別研修講座報告

C111 中学校社会科研修講座

「社会科の『主体的・対話的で深い学び』」

① 11月1日(木)〔実践編〕

講師 教育総合研究所 森田 史生 主任

〈内容の詳細〉

1 「主体的・対話的で深い学び」授業づくり

- ・新学習指導要領で求められる社会科の学びを追究するために、見方・考え方を活用した「よりよい価値を判断する」授業づくりが大切である。
- ・価値判断を追究する授業を展開するためには、単元を通した学びのデザインが重要で、そのために「単元の主題」の設定が鍵となる。
- ・単元の学びを構築するためには歴史・地理・公民のカリキュラムマネジメントが必要になり、2年間の社会科の学びでどんな力を子どもたちは身につけていくのかを授業者自身がつかみ、意識していかなければならない。

2 単元を通した主題の設定

- ・歴史・地理・公民の具体的な単元で、主題の設定の視点や考え方につながる資料やワークシート、思考ツール、ボードなどの教材を活用しながら設定する。
- ・子ども一人一人が課題意識をもつことが大切で、調査活動等学びの見通しを持って学ぶことが重要になる。

3 深まりのある学びにつなげる対話的な学び

- ・グループ学習、クラス全体での交流などは、子どもたちが必要性和目的を持つことが必要になる。そのための話し合いの場の設定やホワイトボード、短冊などの教具の工夫が大切になる。

4 深い学びにつなげる振り返り

- ・振り返りをどのようにしていくかで深い学びになるかどうかが変わってくる。子どもたちが自分の学びを実感でき、自己評価力を高めていくことを授業者が意識していかなければならない。

〈受講者の声〉

○受講している我々にとって、とてもわくわくする講座でした。子どもたちをこのようにわくわくさせる実践をしていきたいと思いました。WebbingMap は実践していましたが、それを活用するために色を付けたり、大事なものを3つ上げさせたりすることで、さらに深めることが学べました。

○子ども目線で「なぜ?」「どうして?」「調べてみたい」と思う授業づくりに変換していきたいです。そのため、まずじっくりと単元や資料をみて、かつ子どもたちを見取っていききたいと思いました。

○黒板、スクリーン、ホワイトボード、短冊、手元の資料、タブレットと、これだけの手法を用いた授業のつくり方があることがわかると同時に、手で考えたり、黒板やホワイトボードで考えたりと、実際にこれだけ頭を働かせながら授業をつくるのが大切なのだなと感じました。

- 主題の設定の仕方や、子どもの考えを共有、分類していくために短冊に効果があると感じました。教師側から提供するのではなく、子どもから引き出す工夫など、明日から使えそうなことを多く学べました。子どもの視点で資料を見る。思考をとらえることの重要性を強く感じたので、学校に戻って教科会で共有していきたいです。



② 11月8日(木)〔基礎・演習編〕
講師 国土館大学教授 澤井 陽介 教授

<内容の詳細>

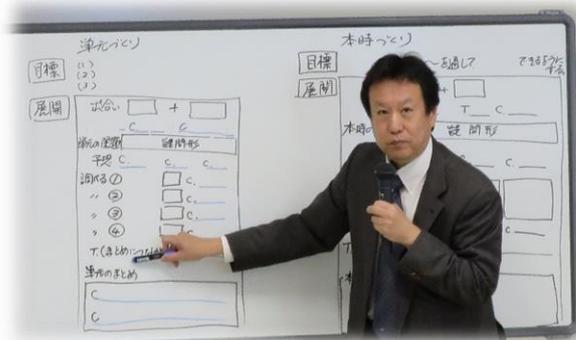
1 社会科の「主体的・対話的で深い学び」の授業づくり (講義)

- ・新学習指導要領で求められる社会科の資質・能力について、目標と具体的な授業実践の場面をもとに中学校だけでなく、小学校、高校とのつながりも含めて理解が深まるとともに、それに対する授業改善の視点をつかむ。
- ・主体的な学びを生み出すために「課題は本当に子どもに届いているのか」「子どもが一人で歩き出せるのか」「どのような子どもを育てるために振り返りをさせているのか」がポイント。
- ・対話的な学びでは「活動の必要性を子どもは感じているか」「力を合わせる目的を理解しているか」「受け止める力、反応する力を育てているか」がポイント。
- ・深い学びでは「教師が本当に豊かな学びを求めているのか」「方法論ではない教材研究を重視しているか」「教科の目標を実現する学びと捉えているか」がポイント。



2 「主体的・対話的で深い学び」の単元の授業案づくり (演習)

- ・地理、歴史、公民の3分野に分かれて「主体的・対話的で深い学び」の単元を協働で立案する。まず大切なのは目標、その目標を達成するための導入とそこからの「単元の学習課題」を考える。考える上で、子どもの予想を想定しながら課題を立てていく。調査する内容、まとめにつながる話し合い。そして単元のまとめを模造紙に描いていった。視点の違う先生との協働立案を通して社会科の本質的話し合いを行った。



3 研修の振り返り

- ・グループごとに考えた単元案に澤井先生からの助言。結果だけでなくプロセスをしっかりと見取ってのコメントをする視点をつかむことが重要。



<受講者の声>

- 現在必要とされている社会科の見方・考え方を活かした新学習指導要領が求めている授業、福井県が目指す授業のポイントを知り、理解を深めることができました。パワーポイントの資料も大変わかりやすいもので考えやすかったです。
- 単元構成について勉強になりました。子どもの疑問を大切にしながら主体的に学ぶエネルギーを大切にしつつも、資質・能力を身につけるために教師が導くこと、これは1時間の授業でもいえることだと思います。こうすることで、目標、課題、調べること、まとめが一致しやすくなると思いました。
- 本当に大切な研究は、正しい知識に向かう問いを見つけることだと学びました。また、知識はポイントではなく、ゾーンで捉えて格上げしていくまとめの工夫は、明日から使えることだと感じました。
- 学習課題で「なぜ？」と問う実践が多い昨今、安易にそのような課題を提示しがちであるが、本当に子どもに届く課題であるかが大切だと知りました。そのために、子どもから気づきや予想を引き出しながら、子どもから「なぜ？」が出てくるような必然性を生む必要があるという視点をいただきました。